

■共同実習船建造に関する事業概要

船の所有者：岩手県

使用高校：宮古水産高等学校（岩手県宮古市）、高田高等学校（岩手県陸前高田市）
久慈東高等学校（岩手県久慈市） ※3校が共同で利用

主な停泊場所：岩手県宮古市（宮古港）

<仕様>

総トン数：170t

全長：約34m

定員：34名

主機関：中速ディーゼル機関

稼働日数：200日程度/年

実習内容：漁業実習（サンマ棒受網漁、イカ釣り漁、サケ延縄漁、近海まぐろ漁）
航海実習、機関実習 など

特記事項：最新鋭の機材搭載（LEDサンマ集魚灯の設置、船内外の照明にLED灯を採用など）
女生徒への配慮に係るトイレや寝室等の設備の追加 など

<スケジュール>

支援事業の決定：2012年12月

工事着工：2013年10月

完成予定：2015年1月

竣工式：2015年2月 岩手県宮古市にて開催予定

利用開始：2017年4月～

<総事業費>

992,327,000円（うち551,592,162円を日本財団が助成し、残額を岩手県及び国が負担）

<その他>

1994年からイカ釣り、サンマ棒受、サケ延縄といった漁業実習や体験航海実習で活用してきた前共同実習船『翔洋』（139t）は、東日本大震災津波で被災し使用不可となり、廃船となっている。



イカ釣り漁実習中のイメージ図